

深川あたりのお富士さん

今回は下町、鬼平犯科帳の舞台にあるおふじさんを回ってみましょう。門前仲町あたりに今はいいお富士山はないのですが、昔の富岡八幡の富士山は立派だったようです。そんな事を思い浮かべ、深川めしでも食べながら歩いてみましょう。それだけではちょっと物足りないので、昔はなかった清砂大橋を渡って葛西付近の富士山にも行ってみましょう。

- ★――鉄砲洲富士・鉄砲洲稻荷神社――有楽町線新富町
- ◆……お岩稻荷・永代橋・豊海橋・高尾稻荷・
- ◆……門前仲町・深川不動尊
- ★――富岡富士・富岡八幡宮
- ◆……清澄庭園・六地藏（靈巖寺）……（深川めし）
- ★――砂町富士・富賀岡八幡宮（元八幡）――東西線南砂町
- ★――雷富士・真蔵院――東西線葛西
- ★――中割富士・天祖神社――東西線葛西



みわ塾 講座 三輪主彦（みわかずひこ）

〒173-0023 板橋区大山町 33-6 090-9827-8340

ホームページ <http://kazmiwa.web.infoseek.co.jp/>

■新富町

地下鉄有楽町線の新富町駅上には中央区の区役所がある。この付近は昔、大富町と言った。明治元年に新島原の遊郭ができたが、しばらくして廃止された。その後「新」島原と大「富」町を合わせて新富町になった。明治5年(1872)この地に「新富座」が開館し、大いに活況を呈し、明治22年歌舞伎座ができるまでは演劇の中心地だった。

新富町駅から湊へ向かう。湊は昔の江戸湊。関西から檜垣廻船や樽廻船で運ばれた物資が小型舟に積み替えられ京橋川・八丁堀を通過して江戸市中に運ばれた。新富町付近の高速道路は昔の川や堀を埋め立てて造られている。

■鉄砲洲

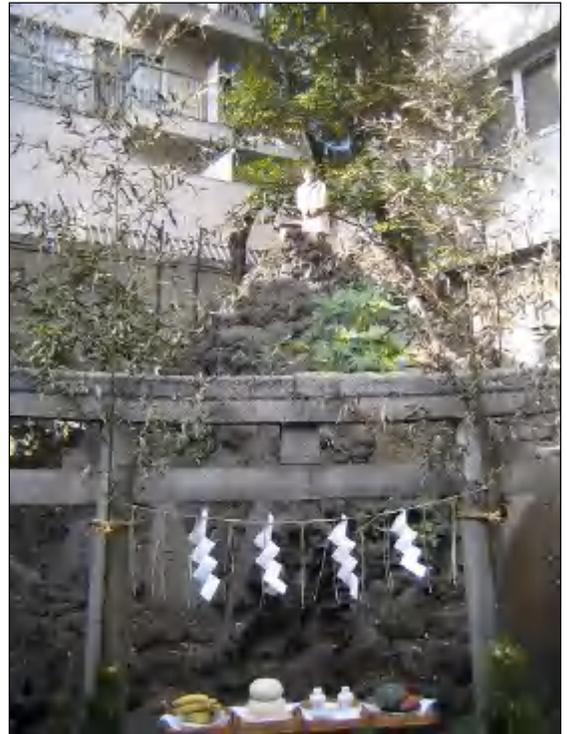
鉄砲洲は京橋川と隅田川の合流付近の細長い洲のことで、ここから芝浦あたりまでを江戸湊といった。州の形が種子島(鉄砲)に似ているとか、ここで砲術の訓練や試射をしたとか、由来はいくつかあるが定かではない。鉄砲洲の内側は埋め立てられ、築地となり、西本願寺が立った。南端は明石町で、明治の頃は外国人居留区だった。今も聖路加ガーデンなど昔の名残がある。

■鉄砲洲富士(中央区湊1-6)・・・①

鉄砲洲稲荷神社の社殿奥に高さ3mほどの熔岩積みの富士塚がある。背後は高いビルに囲まれているので眺望はまったくない。広重の絵にはここから江戸城、富士さんがくっきりと見えるように描かれているのだが。

広重の絵では、鉄砲洲稲荷橋・湊神社となっている。廻船の船乗りたちには崇敬されていたようで、「浪よけ稲荷」とも称せられた。

その場所は今の鉄砲洲稲荷の場所ではなく、少し上流の高橋近くの稲荷橋脇で、八丁堀りに面していた。鉄砲洲稲荷神社は2007年には創建1167年祭というが、今の地に移ったのは明治3年(1870)のことである。富士塚は1873年に移築されたが、その後も境内を何回か移動し、邪魔にならない今の場所に移された。富士講はすでになく、稲荷社の神主さんが7月1日の山開きなどの祭祀を代行している。お願いすれば登ることは可能である。富士講の石碑は多数。中央区指定の有形民俗文化財になっている。頂上に立つのは大きさを比べるための人物で、木花咲耶姫像ではない。



お岩稲荷・高尾稲荷 ひどい目にあった女性達

■お岩稲荷（中央区新川 2-25-11・・・②・四谷於岩稲荷田宮神社 新宿区左門町 17）

お岩さんと言えば「東海道四谷怪談」の主人公。たしか四谷に「於岩稲荷」があったはずだ。お墓は西巢鴨の「お岩通り」の妙行寺にある。こんな場所にもう一つ於岩さんがあるとは知らなかった。由来を読むと歌舞伎の市川左団次から「四谷まで毎度出かけていくのでは遠すぎる。是非とも新富座のそばに移転してほしい」という要望をうけ、明治 12 年（1879）隅田川畔にあった田宮家の敷地内に四谷の於岩稲荷と同じものを造ったそうだ。

四谷怪談では、田宮伊右衛門が愛人のお梅さんと一緒になるため、乳飲み子を抱えた奥さんのお岩さんに毒を飲ませ、お化けのように顔が腫れ上がったお岩さんは「この恨みはらさでおくものか」と言って亡くなったという恐ろしい話だ。お梅との祝言の日、亡霊となってお岩さんがあらわれた。

・・・本当のところはお岩さんと伊右衛門は仲むつまじい夫婦で、お稲荷さん祀りあげられるほどだった、という。しかし仲むつまじいお岩さん夫婦の亡くなった 200 年後に、鶴屋南北はお岩さんの名を借りて勝手に怪談仕上げた。田宮家にとってはいい迷惑だった。お岩さん夫婦はあの世で怒っている事だろ。

■高尾稲荷（中央区日本橋箱崎町 1 0）・・・③

宝永 5 年（1708 年）の元旦に、下役の神谷喜平次が見回り中、川岸に首級が漂着しているのを見つけて手厚く埋葬した。吉原・三浦屋の花魁高尾太夫に仙台侯伊達綱宗が惚れ込み、太夫の目方だけの小判（おそらく 5 億円）を積んで請出そうとしたが、道哲という愛人がいた高尾は見向きもしなかった。怒った綱宗は、隅田川三又の舟中で高尾太夫を逆さに吊るし、首を切り落としたという。隅田川の河水は太夫の血で紅に染まった。

世の人は喜平次が見つけた首級が高尾太夫のものとして崇め、稲荷信仰と結びつけて高尾稲荷として祀った。稲荷神社はもとの日本銀行の跡にあったが、三井倉庫の建設に伴い、社殿とご神体の頭蓋骨（世にもめずらしいご神体）は現在地に移された。

綱宗は伊達政宗の孫で仙台藩第 3 代藩主だったが、暗愚なために 21 歳で隠居させられたという経歴を持つ。かわいそうな高尾。しかし一説には高尾の墓は松島瑞巖寺にあり、仲むつまじく暮らしたという話もある。



永代橋・豊海橋 赤穂浪士がわたった橋

■豊海橋

高尾稲荷から富岡八幡に行くには永代橋を渡るが、その前に日本橋川にかかる豊海橋を渡る。

「豊海橋鉄骨の間より斜に永代橋と佐賀町辺の燈下を見渡す景色、今宵は名月の光を得て白昼に見るよりも稍画趣あり・・・」

と永井荷風の断腸亭日乗にある。荷風がみたのはこの辺りと見当を付け写真をとってみた。夜はライトアップされる。



■永代橋

永代橋は隅田川に架けられた4番目の橋。ちなみに1番目は千住大橋、次に両国橋、3番目が新大橋、「ありゃ新大橋はけっこう古いのだ。」そして永代橋。元禄11年(1698年)8月、5代将軍徳川綱吉の50歳を祝して、深川の大渡しのあった場所に架けられた。永代橋という名は佐賀町付近が永代島と呼ばれていたからという説と、幕府が末永く代々続くようにという説がある。永代島には永代寺があった。

文化4年(1807)、永代寺の敷地にあった富岡八幡の大祭に押しよせた大勢の見物客の重みで橋桁が崩落、1500人をこえる犠牲者が出た。「永代橋」落橋事件は歌舞伎や芝居でくり返され、人々の脳裏に刻まれていた。

「永代とかけたる橋は落ちにけり きょうは祭礼 あすは葬礼」(太田南畝)

■佃島

永代橋の上から大きな中央大橋が見える。東京駅から佃島への最短コースにかかる橋である。この島は摂津(大阪)の国の佃村の漁民を移住させた地で、白魚漁や佃煮で有名であった。広重の絵にも永代橋からみた佃島の白魚漁の様子が描かれている。お譲吉三の「月もおぼろに白魚の かがりもかすむ春の空・・・」もこの辺りからみた時のセリフだろう。佃島には漁民の守り神、住吉神社がある。住吉さんには山の神様であるお富士さんはない。

■赤穂浪士休息の地・・・④

元禄15年(1702)12月15日早朝、赤穂浪士は本所松坂町の吉良邸討入り後、一ツ目通りを通り、途中乳熊(ちくま)屋味噌店で甘酒の接待を受けて休息したのち永代橋を渡り、豊海橋を渡って高輪泉岳寺へ向かった。地図を見ると「おかしいな?」と思うかもしれない。しかし当時の永代橋は今よりも上流にあった。すなわち豊海橋脇の記念碑の付近に永代橋がかかっていたようだ。実は先日、本所松坂町(今は両国3-13-9)の吉良邸から泉岳寺まで歩いてみたときに気がついたのだ。

富岡富士 かなり寂しいお富士山、昔はよかったのに！

■門前仲町……門前ってどこの門の前？……⑤

門前仲町駅の周辺には、富岡八幡宮と深川不動尊がある。八幡さまの前なら宮前であって門前ではない。深川不動尊は成田不動の出開帳の場所で、明治14年に造られたものだから、この寺の門前でもない。

実は永代橋のところで書いたように、ここには永代寺という大きな寺があり、その門前だったのだ。江戸の時代の古地図には永代寺門前と画いてある。神仏混淆の時代、永代寺の住職と富岡八幡宮司を兼ねていた。もとは永代寺の方が大きく由緒があったのだが、明治元年の廃仏毀釈により廃寺になった。片方がなくなっても、敷地さえ引き継げば実質的には変化はなかったもので、すんなり廃寺になったようだ。しかしここにあった江戸六地藏も右の錦絵にあるお富士もなくしてしまったことは、大きな損失だった。

今現在、深川不動尊の参道に永代寺という小さな寺がある。永代寺の末寺の吉祥院が後に永代寺を名乗ったもので、元の永代寺ではない。

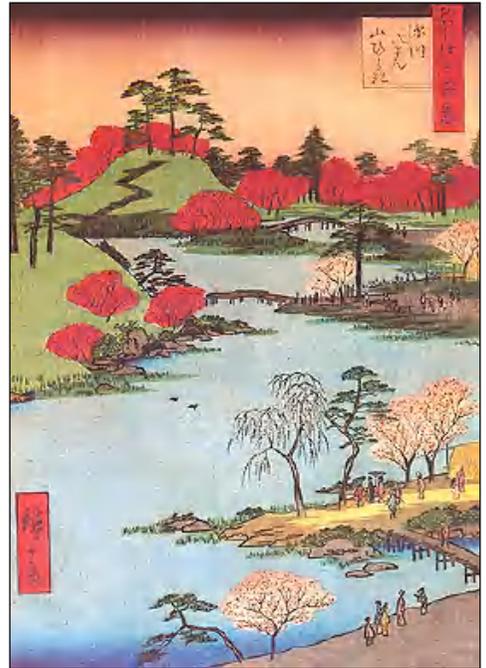
■富岡八幡宮

深川の八幡様と親しまれる「江戸最大の八幡様」で、そのお祭りは、日枝神社の山王祭、神田明神の神田祭とともに「江戸三大祭」に数えられている。3年に一度の大祭は黄金のお神輿をはじめ大小120基ものお神輿が出る。写真でしかみたことはないが、ものすごい人出だ。境内には相撲の横綱の碑や伊能忠敬の像もある。伊能忠敬は測量に出る時必ず八幡宮に詣でてから出発した。

もとは砂村の富賀岡八幡から深川永代寺の敷地に勧請されたものだが、江戸の人には寺よりも八幡の方が人気が高かった。永代橋落橋事件は深川八幡の人気を示すものでもあった。

■富岡富士（江東区富岡町1-20）……⑥

広重の絵には、「深川八まん山開き」とある。永代寺の庭に造られた富士山で、3月21日から公開されていた。その日は弘法大師の御影供（みえいく）の日だが、だれも気がつかず、富士山に登っていたと記録されている。永代寺とともに富士山もなくなったが、近年富岡八幡宮の中に1mほどの小さな富士山が再建された。富岡八幡ともあろうものが、こんな貧弱なものをなぜ許したのか。かなり恥ずかしいし、残念だ。砂町の本家富賀岡八幡のお富士さんの方がはるかに立派だ。ぜひ作り直して欲しい。



清澄庭園にも富士山が・・・富士塚ではなさそう

■清澄庭園の富士山（江東区清澄3-3）・・・⑧

清澄白河は清澄と白河を合わせた地下鉄の駅名だ。清澄は清住弥兵衛町さんが開拓したので、昔は弥兵衛村だったが昭和になり清住、そして清澄になった。

白河は寛政の改革で有名な白河藩主松平定信の墓が霊巖寺にあることから名づけられた。清澄白河駅はその中間にある。

清澄庭園はもとは紀伊国屋文左衛門の別荘という話もあるが本当は久世大和守の屋敷で明治になって岩崎弥太郎が買い取り、三菱の従業員の保養所に使われていた。その後東京府に移管され、東京都の庭園第一号になった。

清澄庭園内に富士山があるのだが、これは富士講の富士塚ではない。でも東京の富士山には入れておきたいと思っている。



■六地蔵・・・⑦

松平さんの墓がある霊巖寺に江戸六地蔵のひとつがある。六地蔵は街道の出入り口におかれ、道中の安全を守ってくれた。第1番は東海道筋にある品川寺、2番は甲州街道新宿の太宗寺、3番中山道の巢鴨真性寺、4番は奥州街道の東禅寺、第5番は白河の霊巖寺、第6番は千葉街道の永代寺だった。しかし永代寺は廃寺になり、地蔵様もいなくなり、今は5地蔵である。お富士さんといい六地蔵といい、永代寺を廃寺にしたことは、江戸文化をかなり壊したということだ。ちなみに巢鴨真性寺の六地蔵はおばあさんの原宿の「とげぬき地蔵」ではない。

■深川めし

日本五大銘飯のひとつ「深川めし」はざっくりと切った葱と生のあさを味噌で煮込んで熱いご飯に「ぶっかけた」漁師の知恵の一品。深川は江戸時代は漁師の町として栄え、江戸前の魚貝類や海苔などを捕る漁師が大勢おり、良質のあさりやカキがとれ、それらが深川名物だった。

砂町富士・・・こっちが本家の八幡様、富士塚もすばらしい！

■砂町の富岡八幡宮（元八幡）

地下鉄東西線南砂町の元八幡に行く。富岡八幡はこの八幡様を勧請したものだから、こちらが本家である。富岡八幡宮というが通称は元八幡、バス停もそうになっている。深川の富岡八幡宮の富士塚は貧弱だったが、こちらの富士は立派である。ぜひ

こっちも見てほしい。

昔はここらあたりは海岸砂州であった。摂津の国の砂村新左衛門が砂州の内側の干潟を干拓して新田を作ったことから砂村新田と名づけられた。新左衛門が砂丘を新田変えたので、砂村という名前をもらったのだと私は思うのだが。

創建年代は不明だが、源三位頼政や大田道灌が崇敬していた宮だったが、長盛法印という人が寛永6年に深川に宮を移し富岡八幡宮とした。しかし元の社は残っており、村人は元八幡とよび崇敬した。

洲崎からこの宮へ続く葦原の道の両側には桜が植えられ、満開の時には大勢の客がきたという。広重も「砂むら元八まん」で、桜の景色を描いている。



■砂町富士（江東区南砂7）

八幡様の本殿の裏手には溶岩で固めた5mほどの高さの立派な富士塚がある。周囲には富士講の石碑がいくつも立てられているし、登山道もお中道もあり、小御岳神社もある第一級の富士塚である。案内板には高さ10mとあるが、そんな高さはない。

写真は雪をかぶった富士山ではなくイチョウの落ち葉をかぶった富士塚。頂上に立つのは木花咲耶姫ではない。大きさが分かるように立ってもらった。

亀戸富士 浅間社は立派になったが富士塚は掘ったらかし！

■亀戸富士（江東区亀戸9-15-7）

江東区には富岡富士と富賀岡八幡の砂町富士、それに亀戸浅間神社の亀戸富士がある。古い写真を見ると立派な富士山があったのだが、再開発により浅間神社が隣に移転した。富士塚は発掘され、様々な遺跡がでてきたが、2007年現在、その跡は掘ったらかしままで、復元されていない。柵で囲った中には富士講の石碑がいくつも放置してあり、これでは持ち去られるか、風化してしまう。文化財としてきちんと保存しなければいけない。



ここには富士講創建者である食行身禄の碑もある浅間さまである。本殿をきれいにするだけでなく、富士山再築にも力を入れてほしい。

雷富士・中割富士 葛西にあるお富士さん。ともに移転した富士塚

■雷富士（いかずち）（江戸川区東葛西 4-38）

東西線葛西駅の周りに2つのお富士山がある。砂町から清砂大橋を渡れば真っ直ぐだから足を伸ばしてみるのも良い。清砂大橋からの通りは新しくできた道で現在は雷香取神社の前で行き止まりになっている。

この神社の、隣に真蔵院（雷不動）というお寺がある。本殿の脇に鳥居があり富士塚がある。富士塚はたいてい神社の中にあるものだが、前回の護国寺のように寺の中に鳥居が立っている例も多い。昔は神仏は一緒だったのだから、問題ない！高さは2mほどだが、塚の脇に富士講・浅間神社の石碑が並んで建てられている。小さいがさっき回った富岡富士よりははるかに立派である。もともとこの富士塚は雷香取神社の境内にあり、もっと大きかったが、道路の拡張で神社が動き、富士塚は隣のお寺に移動したようだ。



■大般若祭り

真蔵院では、毎年2月最終日曜日に天下の奇祭といわれる「雷（いかずち）の大般若」が旧雷町会（東葛西4〜7丁目）で行われる。江戸末期にコレラが蔓延し、真蔵院の和尚が大般若経を背負って家々を回ったところ、被害がなかったことから始まった。女装するのは、結核にかかった妹のために、兄が妹の長襦袢を着て厄払いをしたからという。私はまだ見たことないので来年こそ行ってみるぞ！

■中割富士（江戸川区東葛西 7-18）

天祖神社境内にある。この神社は旧東宇喜田村中割の鎮守で、神明社だったが、明治5年に天祖神社になった。区画整理に伴って平成元（1989）年、東葛西9丁目から移転。富士塚は昭和初年に丸葛・葛西講によって旧天祖神社境内に築造されたものだが、神社の移転にもなってここに移築された。

高さは3mほどで、直線状の登山道が上に続いており、登ることも可能。熔岩積みで立派。裾野の丸い石は昔地元の青年達が力くらべをした力石である。



※次回は6月30日 7月1日は富士の山開きの前夜祭。

西武池袋線江古田駅前の浅間神社境内 10:00 集合